

「5G ミリ波の最前線」

～26GHz帯オークション結果も踏まえた普及加速の動き～

- 26GHz帯オークション結果を踏まえたミリ波活用の新たな局面展望
- NTTドコモおよびKDDIのミリ波実証事例および事業計画
- 5G AdvancedからBeyond 5G/6Gへ向けた最新動向
- ミリ波ISAC（通信・センシング統合）がもたらす新たな価値を展望

講師	(座長) 上智大学 理工学部 客員教授 (開催趣旨説明) マルチメディア推進フォーラムモバイル部会 部会長代理 (元・エリクソンジャパンCTO)	服部 武氏
	総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課 課長補佐 株式会社NTTドコモ R&Dイノベーション本部 6Gテック部 無線アクセス技術担当 担当部長 KDDI株式会社 コア技術統括本部 ネットワーク開発本部 (講演順) アドバンスド技術推進部 RAN先進技術開発グループ グループリーダー 株式会社JTOWER 技術本部 技術部 技術開発課 課長	藤岡 雅宣氏 高橋 信一郎氏 須山 聡氏 田中 敦氏 松本 達明氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190(代) FAX 03(6416)5351

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内

明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となっており、多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでは気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになっている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご
ご閲覧下さいますようお願い申し上げます。

■「マルチメディア推進フォーラム

—— P A R T 1018 ——

」開催内容

(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「5Gミリ波の最前線」

～26GHz帯オークション結果も踏まえた普及加速の動き～

日 時 2026年 10月 16日 (金) 13時00分～17時00分

時間	講 演 内 容	講 師
(本フォーラムの趣旨・論点)		
● 26GHz帯オークション結果を踏まえたミリ波活用の新たな局面展望 ● NTTドコモおよびKDDIのミリ波実証事例および事業計画 ● 5G AdvancedからBeyond 5G／6Gへ向けた最新動向 ● ミリ波ISAC（通信・センシング統合）がもたらす新たな価値を展望		
5Gサービスの本格普及が進む中、その真価を発揮する技術として26GHz帯・28GHz帯を中心とする「ミリ波」への期待が高まっています。高速・大容量・低遅延という5Gの特長を最大限に引き出す可能性のあるミリ波は、スタジアムや大規模イベント会場における超高密度通信、製造現場のスマートファクトリー化、建設現場の遠隔施工、自動運転、ドローン、高精細映像伝送、XR（AR/VR/MR）や空間コンピューティングなど、次世代のデジタル社会を支える基盤技術として期待されています。 一方で、ミリ波の活用は新たなステージを迎えています。2026年6月に日本で初めてとなる26GHz帯5G向け周波数オークションが実施され、全国枠をNTTドコモが落札したほか、地域枠ではJTOWERやハイテクインターが落札するなど、従来の携帯電話通信事業者に加え、インフラシェアリング事業者など新たなプレーヤーによる活用への期待も高まっています。これにより、ミリ波は実証実験の段階から本格的な社会実装・事業化フェーズへと移行しつつあります。 さらに近年は、生成AIの急速な普及に伴う通信需要の拡大などを背景に、これまで以上に大容量かつ低遅延な無線ネットワークへの期待が高まっています。今後、AI、XR、デジタルツイン、自律型ロボットなどの活用が進むにつれ、ミリ波は単なる高速通信技術ではなく、次世代産業や社会インフラを支える重要な競争基盤としてその価値を高めていくことが予想されます。 またBeyond 5G／6Gに向けた検討が加速しており、その中核技術の一つとして注目されているのが、通信とセンシングを融合するISAC（Integrated Sensing and Communication）です。通信に利用する電波を活用して人や物体、車両などの位置や動きを高精度に把握するISACは、自動運転、スマートシティ、インフラ監視、防災、産業オートメーションなど幅広い分野での活用が期待されています。特にミリ波は高精度な環境認識を可能とすることから、6G時代を見据えた研究開発が世界各国で進められています。 本セミナーでは、総務省や26GHz帯免許取得事業者より、これまで取り組んできたミリ波実証実験の成果や社会実装に向けた戦略、AI時代を見据えたネットワーク高度化への取り組みについて紹介いただきます。 政策、周波数戦略、通信ネットワーク、実証実験、そしてISACや6Gといった将来技術までを俯瞰しながら、「5Gミリ波の現在地」と「次の成長ステージ」を展望することで、参加者の皆様に今後の事業戦略、技術開発、DX推進に向けた新たな示唆を提供する機会とします。		
(座長)		
上智大学 理工学部 客員教授 服 部 武		

13:00 ～ 13:10	(開催趣旨説明)	質疑 応答	藤岡雅宣氏 マルチメディア推進フォーラム モバイル部会 部会長代理 (元・エリクソン ジャパンCTO)
13:10 ～ 14:05	「5Gの現在地、Beyond5G (6G) の方向性」 ●5Gの普及・展開の現状と今後の展望 ●26GHz帯周波数オークションの振り返り ●Beyond 5G (6G) 実現に向けた取り組み	質疑 応答	高橋信一郎氏 総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課 課長補佐
14:05 ～ 15:00	「NTTドコモのミリ波活用と今後の事業展開」 ●ミリ波の導入状況と26GHz帯による事業展開計画 ●アリーナでのミリ波実証試験と得られた知見 ●ISACを活用した環境認識・位置推定技術 ●Beyond 5G/6G実証研究の最新動向	質疑 応答	須山聡氏 株式会社NTTドコモ R&Dイノベーション 本部 6Gテック部 無線アクセス技術 担当 担当部長
(休憩) (15:00～15:10)			
15:10 ～ 16:05	「KDDIのミリ波展開戦略と社会実装への取り組み」 ●新宿エリア、列車内引き込み、イベント会場など実証試験で得られた知見 ●NTTドコモとの周波数共用中継器開発の狙いと展開計画 ●KDDIのミリ波展開計画 ●Beyond 5G/6GやISACへの取り組み	質疑 応答	田中敦氏 KDDI株式会社 コア技術統括本部 ネットワーク開発 本部 アドバンスド技術 推進部 RAN先進技術開発グ ループ グループリーダー
16:05 ～ 17:00	「JTOWERのミリ波展開戦略と社会実装への取り組み」 ●JTOWERのシェアリング事業の取り組み ●26GHz帯ミリ波地域枠免許取得の狙いと事業計画 ●シェアリング事業とミリ波通信サービス事業の連携 ●ミリ波通信サービス市場における課題と期待	質疑 応答	松本達明氏 株式会社JTOWER 技術本部 技術部 技術開発課 課長

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会			(順不同 敬称略)		
委員長 (運営諮問委員会幹事)	齊藤 忠夫	東京大学	名誉教授	稲葉 陽子	㈱NTTデータグループ 部門執行役員 技術革新統括本部長
	代表幹事			中村 元	KDDI㈱ 執行役員 (KDDI総合研究所 会長)
	齊藤 忠夫	東京大学	名誉教授	宮川 潤一	ソフトバンク㈱ 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO
副代表幹事				石原 直	東京大学大学院 工学系研究科 特任教授
	服部 武	上智大学	客員教授	浅見 徹	㈱国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長
	森川 博之	東京大学	大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授	遠藤 信博	日本電気㈱ 特別顧問
幹 事	成宮 憲一	一般社団法人		新野 隆	日本電気㈱ 取締役 会長
		科学技術と経済の会	専務理事	木内 道男	日本電気㈱ 執行役 Corporate EVP 兼 テレコムサービスビジネスユニット長
	尾上 誠三	国際電気通信連合 (ITU)	電気通信標準化局長	高木 康志	富士通 (株) SVP システムプラットフォームBG エグゼディレクター
	川野 真稔	デジタル庁	戦略・組織グループ参事官	伊藤 明男	㈱HYSエンジニアリングサービス 代表取締役 取締役社長
	間宮 淑夫	元・内閣官房参与		梶村 啓吾	エクシオグループ㈱ 代表取締役社長
	渡邊 昇治	内閣官房内閣審議官		加茂下哲夫	㈱ソリューションズ* & ネットワーク㈱ 代表執行役員社長
	西尾 崇	国立研究開発法人 土木研究所		(主な設立発起人)	
			戦略的イノベーション研究推進事務局 次長	齊藤 忠夫	東京大学 名誉教授
	立川 敬二	㈱ハイテクノロジー推進研究所	取締役・特別顧問 (宇宙航空研究開発機構 元 理事長)	吉川 弘之	東京大学 元 総長
	有賀 寿	日本放送協会	技術局 局長	立川 敬二	㈱ハイテクノロジー推進研究所 取締役・特別顧問
	川添 雄彦	NTT㈱	チーフエグゼクティブフェロー	(最高顧問)	
	池田 敬	NTT東日本㈱	代表取締役副社長	杉本 榮一	自由民主党 元 政務調査会 調査役
	桂 一詞	NTT西日本㈱	代表取締役副社長		
	海老原 孝	NTT㈱	常務執行役員 技術企画部門長		
	坪谷 寿一	㈱NTTドコモ	代表取締役副社長 CTO、CAIO、CIO、CSIO		
	伊東 匡	NTTアドバンステクノロジー㈱	代表取締役社長		

マルチメディア推進フォーラム — P A R T1018 — 開催

- 日時 2026年 10月 16日 (金) 13時00分～17時00分
- 本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申込み下さい。(一部、一般受講も受付ておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

- 受講料 ￥53,900.- (消費税を含む)
- 申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190 〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351 E-mail fm@ahri.co.jp
- 申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上 (http://www.ahri.co.jp)にてお申し込み下さい。
- 送金方法 銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普) 三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普) ※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。
- キャンセル フォーラム開催前、10月9日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡お願い申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は代理の方の出席か当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。
- 申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム — P A R T1018 — 申込書 (申込日) 月 日

会社名			TEL () — FAX () — E-mail:
会社住所	〒		
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名 (ふりがな)	
支払法	●銀行振込 (年 月 日振込予定) ●	通信欄	請求書—要・不要